

令和4年度第2回生野区区政会議こどもの未来部会

1 開催日時

令和4年10月28日（金） 19時00分～20時34分

2 開催場所

生野区役所6階604・605会議室

3 出席者

（区政会議委員）8名

池原委員、加藤委員、山崎委員、大藤委員、塚本委員、前田委員、洪委員、森本委員

（区PTA協議会）2名

倉本会長、小西副会長

（オブザーバー）1名

宮崎委員

（生野区役所）11名

筋原生野区長、櫻井副区長、上原教育委員会事務局学校環境整備担当部長兼生野区役所こども未来担当部長、小原企画総務課長、杉本区政推進担当課長、大川地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長、松村安心まちづくり担当課長、谷上保健福祉課長、清水地域福祉推進担当課長、堀川教育委員会事務局総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長、三根生こども未来担当課長（教育委員会事務局兼務）

4 委員に意見を求めた事項

（1）生野区将来ビジョン等について

資料1 生野区将来ビジョン2026（ベース案）

（こどもの未来部会関連施策：48～53ページ）

参考資料1 令和4年度生野区の取組みの中間振り返りについて

（こどもの未来部会：抜粋分）

参考資料2 （仮称）生野区地域福祉ビジョン2026（素案骨子）

参考資料3 前回いただいたご意見一覧（全体会：令和4年6月14日）

（2）その他

5 会議内容

○杉本区政推進担当課長

それでは、皆様お待たせいたしました。ただいまから令和4年度第2回の生野区

区政会議こどもの未来部会を始めさせていただきます。

委員の皆様、ご多用のところ、ご出席いただきまして、ありがとうございます。私、事務局しております生野区役所企画総務課、杉本と申します。着座にて失礼いたします。よろしくお願いいたします。

会議開催の前に、本日の出席状況等についてご報告いたします。本日の会議は、委員定数10名に対しまして8名のご出席がありまして、定数の2分の1以上の出席ということで、有効に成立してございます。

なお、当部会につきましては、地域により身近な区役所が学校運営の支援や学校・地域ニーズに合いました具体的な取組を推進していく分権型教育行政における、保護者・区民の皆様の多様な意見・ニーズを酌み取るための会議としての役割を担っていただいております。本日、関係者として区PTA協議会から2名の方にお越しいただいております。ありがとうございます。

また、本日、他の部会からのオブザーバーといたしまして、まちの未来部会の宮崎委員も参加いただいております。オブザーバーの方につきましては、部長から求めがあった場合のみご発言いただけるということになってますので、よろしくお願いいたします。そして、本日の傍聴者1名となっております。

区政会議に関する本市の規則によりまして、本日出席された委員の方のお名前、発言内容が公開されます。事務局におきまして会議録を作成しまして、後日、区役所のホームページ等で公開させていただきますので、録音や撮影についてご了承のほどよろしくお願いいたします。

次に、本日の区政会議の趣旨と配付資料についてご説明いたします。本日のこどもの未来部会では、生野区の目指すまちの将来像としての生野区将来ビジョンの中で、主に子育て、教育の分野について、委員の皆様にご意見やご議論をいただきたいと考えてございます。本日の会議でいただいたご意見は、後日、資料にしまして全体会の場で部会からご報告いただきまして、全ての委員の皆様にご共有いただきます。

続きまして、本日の資料についてご説明を申し上げます。まず、左肩に当日用とございます令和4年度第2回生野区区政会議こどもの未来部会の次第です。ご覧ください。本日の会議資料を記載してございます。資料がおそろいでない場合、お手を挙げていただければお持ちいたします。

まず、事前に送付しております資料となりますけども、資料1といたしまして、生野区将来ビジョンベース案というA4横の資料がございます。続きまして、参考資料1としまして、令和4年度生野区運営方針中間振り返り（こどもの未来部会：抜粋版）という資料がございます。こちらは今年度の生野区の取組について中間的に振り返りを行ったものでございます。続きまして、参考資料2としまして、生野区地域福祉ビジョン（素案骨子）というA4横の資料がございます。そして、参考資料3としまして、前回いただいたご意見の一覧、全体会の令和4年6月14日に行った全体会のご意見の一覧ということでございます。あとチラシも何枚か置かせていただいております。まずは区民の皆様にお勧めしたい大阪市の関連のアプリの一覧を紹介したA4のチラシがございますので、またご覧ください。もう一つ、A

3のチラシになりますけども、御幸森小学校の跡地活用としまして、このたびプレオープンしましたいくのパークの紹介、それとあわせまして、10月30日と11月3日に行われるプレオープンイベントも掲載してございます。資料は以上となっております。

事務局からのご報告は、以上となっております。

それでは、これからの議事進行につきましては、大藤部会長のほうによりしくお願いしたいと思っております。

○大藤部会長

皆さん、こんばんは。部会長の大藤です。よろしくお願いいたします。

ただいまから令和4年度第2回こどもの未来部会を開催します。

区政会議は、地域でまちづくり活動を実際に進めている私たちが、区役所と一緒にになって、意見を述べる場となっております。

部会が出された意見は全体会議にて報告し、共有することとなります。その中で、この部会は、生野区のこども・子育てなどの分野について、有効で活発な議論が行えるように意見交換を進めていきますので、皆様、よろしくお願いいたします。

それでは、開催に当たりまして、筋原区長からご挨拶をお願いいたします。

○筋原区長

皆さん、こんばんは。生野区長の筋原でございます。本日はお仕事やご家庭のご用事でお忙しい中お集まりをいただきまして、誠にありがとうございます。

4月に生野区長を就任させていただきまして半年余り経ったわけでございますが、今、生野区内に住まわせていただきまして、日々この生野区の優しさ、また人情深さ、そして熱さも本当に感じ入りながら暮らさせていただきまして、また働かせていただいているところでございます。

本日は、未来の生野区をどのようなまちにしていくか、あるいは目指すまちにするためにこれから4年間どのように区政を進めていくのか、そういう方向性を示しました将来ビジョン等を策定するに当たりまして、委員の皆様の忌憚のないご意見をお伺いしたいと思っております。生野区を暮らして面白い、遊んで面白い、そして働いても面白いまちにするために、区政に取り組んでまいりたいと思っておりますので、本日、どうぞよろしくお願いいたしますを申し上げます。

○大藤部会長

ありがとうございました。

それでは、会議の次第に沿いまして、議事1、生野区将来ビジョン等について、区役所から説明をお願いします。

○上田企画総務課長代理

生野区役所企画総務課課長代理の上田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。着座にて失礼いたします。

まず初めに、将来ビジョンがどういったものなのかということでご説明させていただきます。将来ビジョンとは行政区の一つである生野区の今後進むべき方向性を示す道しるべのようなものです。本市では自立した区長マネジメントによる区政運営を図るべく、各区で将来ビジョンを策定しています。生野区では平成24年度末に

策定し、平成29年度に改訂を行っています。前回の改訂から4年が経過しており、その間に新型コロナウイルスの感染拡大などによる新しい生活スタイルが誕生するなど、社会を取り巻く情勢も変わっており、改めて現状を見つめ課題を把握した上でこれからの区政の進む方向性を再認識し、取り組んでいこうということで新しいビジョンについて考えているところです。区政会議の委員の皆様にはビジョンのベースとなる案をお示しして、まちの将来像に向けた課題認識の共有を行うとともに、考えていただければと思いますので、本日の議題として上げさせていただいております。

策定のスケジュールとしましては、この区政会議の後、ビジョンの素案を取りまとめ、来年1月頃にパブリック・コメントとして一般の市民の方へご意見を募集し、改めて区政会議でお示しした上で新年度までに完成という運びで考えております。なお、区政会議で皆さんから定期的にご意見をいただいております区の運営方針は、このビジョンの実現に向けた年度ごとの取組をまとめたものとなっております。毎年計画を立てて実行し振り返り、次の計画へつなげるといったPDC Aのサイクルで進めております。

本日は時間の関係で割愛させていただきますが、先ほど参考資料としてお話しいたしました今年度の取組の中間時点での振り返りということにつけさせていただいておりますので、またご参考ください。

それでは、お手元の資料に基づいてご説明をさせていただきます。

まず初めに、生野区のまちの特徴です。5ページをご覧ください。1つ目として、グローバルのまちであるということが考えられます。5人に1人が外国籍の方であって、外国人人口割合は全国の都市部で最も高く、約60か国の方が暮らしています。

続いて、6ページです。ものづくりのまちであるというふうに言えます。製造業の事業者数は市内24区で最も多く、日本のものづくり産業の発展を支えてきた高度な技術を持つ事業所があると言えます。

続いて、7ページになります。住民同士の助け合いがあるまちということです。地域団体やボランティアグループによる活動が活発で、区内のNPO法人の数も50を超えています。

続きまして、生野区を取り巻く状況です。10ページに飛びます。人口の増減で見えていくと、全国同様に、生野区でも少子化、高齢化が進み、1960年の23万7,000人をピークに減少が続いております。23年後の2045年には10万人を割り込むという予想がされております。

次に、13ページをご覧ください。人口減少・高齢化に伴う本市への影響としまして、経済、市民生活、医療・福祉、まちづくりの各分野で様々な影響が想定されています。このような想定される事態を踏まえた上で、生野区の目指す姿として現行の将来ビジョンを引き継いだ上で大きく3つにまとめております。

資料16ページになります。

1つ目ですが、高齢化の進む中で誰もが普段の暮らしから災害などの非常時でも安全・安心を身近に感じて暮らせるまちということです。これは区民の生命、身体にかかわることで、まちづくりとして基盤となるものです。

次に、2つ目として、生野区にたくさんの方が訪れてもらい、住んで、住み続けたいと思えるようにぎわいとろどり豊かな魅力あるまちとなっていることです。

そして、3つ目は、子育て環境にぴったりで未来あるこどもがいきいきと学び成長していく、子育てにやさしく教育につよいまちです。

この3つの目指すまちの姿の実現に向けては、まだ道半ばであります。引き続き実現に向けた施策に取り組んでまいりたいと思いますので、よろしく願いいたします。

ここからですが、とりわけ目指す姿、将来像の実現に向けての前提となる基本的な理念、考え方について、区長の筋原からご説明させていただきたいと思っております。

○筋原区長

17ページをお開けください。私は区政の全てに通じる異和共生という考え方を基本理念としております。

18ページをご覧ください。異和共生、文字にすると異なったままで、和やかに、共に、生きるという考え方でございます。私は今まで、この4月から生野区長を務めさせていただいておりますけど、その前は港区長を5年間、そして、またその前は大正区長を7年間やっておりました。大正区というのは人口の4分の1が沖縄出身者とそのご家族というまちで、当時、沖縄文化と大阪文化という、日本で非常に特徴のある2つの文化がすごくぶつかり合って、なかなかぶつかりのあつれきが激しかったものですから、その中でこの異和共生という考え方にたどり着いたという形でございます。

異和共生という考え方については、ほかの自治体などであれば、多文化共生というときに、よく壁を取り払って一緒にやりましょうっていうわけなんですけど、今までの私の経験から言うと、壁を取り払うとなかなかうまくいかなかったんです。というのは、壁を取り払ってしまうと、強いほうが弱いほうを飲み込んでしまうという、併合という形になることが多くて、なかなか共生できなかったんですね。ですので、異和共生というのは、あえて壁を残しましょうということなんです。壁を大切に残して、そして、お互いに自分の壁、相手の壁を意識しながら、ただ、壁の外に半歩でも踏み出して、その壁と壁の間、隙間で一緒にできることを少しずつ広げていきましょうという考え方です。その前提となるのは、お互いが持っている壁というのは、その壁を支える土台、そこに文化や歴史がありますので、それをリスペクトして尊重し大切にすることを前提にして、そして、壁と壁の間で少しずつ一緒にやりましょうという考え方が異和共生でございます。

次に、19ページをご覧ください。大正区、港区、ベイエリアのほうは、生野区と比べると非常に人口も少なくて衰退の傾向にありました。ですので、いかに衰退を止めるかということでやってきたわけですが、そこで取り組んできました手法として、公民地域連携というのを大切にしてきました。

次、20ページをご覧ください。これは行政だけでまちづくりをするといっても、行政の資源にもいろいろ限りがございます。一方で、まちにはいろいろな民間の方、専門家の方、いろいろなノウハウ、専門性を持った方々がおられますので、視点を

広げ、また一方で、行政というのは、信用力はあつたりしますので、そういう行政側、そして民間、地域の皆さんとの連携でそれぞれの強みを生かして、お互いにフラットに対等な関係で同じ目標に向かって、先ほどの異和共生でできることを一緒に少しずつやっていきたいと、そういう形で公民地域連携を大切にしているいろいろなことをやってまいりました。

次に、21ページをご覧ください。この公民地域連携をやっていくに当たって、大正区のほうでいろいろと正直失敗したこともありまして、その中で実践していく中で、こういう形が一番まちを元気にするのに効果があったなという形をこの4つのステージに分けて、そこに書いています1、2、3、4つの分野に分けて、衰退期、回復期、再変革期、再生期という形で4つのステージに分けてまちづくりを整理しております。

22ページをご覧ください。こういう形で4つの分野、4つのマトリックスに分けて考えております。左右の軸が左に行くほど行政がお金を出して助成をしているという状態です。右に行くほど収益が得られて独立した収益事業ができている状態で、上下の軸は、上のほうがにぎわい創出、活性化の軸で、下のほうが相互扶助、助け合いという軸です。こういう形で分けますと、左の下の①の分野というのが、これは従来、昔から大阪市にある大切なコミュニティの形です。町会、まちづくり協議会は、ここにあると思うんですけども、行政がいろいろなことをお願いして、助成金を渡してボランティアでやっていただいています。助け合い、見守りの世界ですね。こどもたちの通学路の見守りも本当に皆さんにお世話になってやっていただいております。また、今はコロナでちょっと難しいときもありますけど、盆踊りや敬老大会であるとか、また高齢者の食事サービスや防災訓練も助け合い、相互扶助の世界です。この分野では非常に大切な分野で、ここのコミュニティがなかったら本当にまちの大切な部分というのは成り立たないわけですが、ただ、これも人口が少なくなると、非常に衰退してくると今までの形の活動もだんだんできなくなってくるんです。

私が実感するんですけど、生野区の場合は町会やいろいろな組織が、きちんと世代交代もされて、若い方へも引き継ぎできているわけですけど、本当に衰退していくと、70代、80代、90歳の方がほとんどになって、もう新しい方が入ってこなくなると、さすがに10年後どうなるのっていう形になってくるわけですよ。新陳代謝がないとさすがに継続できなくなってくる。そうなるとやっぱり衰退してくるので、これではいけないということで、その上の2分野ですね、何か新しいことをしようということで、大正区でも花火大会をしようとか、大正区ではちょうど10年前が沖繩本土復帰40周年で、「純と愛」という朝ドラの舞台地になったこともあって、NHKが力を入れてくれて、そのときかなり大きいイベントをすごくやりました。イベント自体は大成功で何万人もお客さんが来てくれました。ただ、ショックだったのは、それだけイベントは大成功でしたが、人口減少、人口流出を止めるのは全く効果がありませんでした。何の効果もなかった。これ、僕はすごくショックで、これどうしたらいいのかと思って、冷静に考えたら、まちが変わるといえるのはすごく膨大なエネルギーが要るので、年に1回とか数回のイベントだけではエネルギーが

不足しているんですよ。毎日の日常生活が楽しくならないと、面白くならないと、まちは元気にならないなというのを痛感したわけです。

それで、この次に第3分野に行くわけですが、そこで、例えば、空き家を再生して、リノベーションをして、面白い魅力的な人がやる面白いお店とか場所をつくる、そういうことですね。それは創業になるわけですね。事業としてやりますので、毎日続くわけです。ちゃんと収益を取って事業としてやると。そういうことを少しずつ、空き家を再生したり、あるいは川のところを使って河川敷を再生したりというようなことを続けていきまして、やっていると、私が区長7年目にやっと大正区は人口の流出増から流入増に転換をいたしました。やっぱり日常が面白くなる。そして、やっぱり面白い人が集まるといところが大事だなと思った次第です。

次に、では、そうなったら次の世代のこどもたち、次世代にやっぱりそういう面白さ、そういう面白いことをしている大人が、次の世代に自分たちはこういう面白いことを、仕事をやってるよということを引き継ぐ、継承するということです。これ、教育と言葉変えてますけど、教育という言葉は正確でないかもしれません。継承、引き継ぐということですね。そういう形でまた地域に人とお金が循環することでコミュニティも再生して行って、そして、そういうことでNPOであるとかいろいろな多様な組織も生まれていろんな活動ができていくと。これも僕が生野区へ来てすごい感銘を受けているんですが、生野区はNPO法人が50以上もあって、そういう多様な社会的課題を持つ方を支援する組織も本当にたくさんあります。ですので、生野区はまだまだ地域もNPOも社会福祉協議会であるとかいろいろな組織が元気なんですね。これは、もともと日本の多分、高度成長期、こんな元気な状態だったと思うんです。生野区はまだそれが元気なので、私からすると、生野区はまだ衰退しつつあるというのは、ご心配なことは確かにありますけど、実感としたら本当の衰退はまだないんですよ。まだ間に合うんです。だから、今この地域もまだまだ元気、そして、NPO法人やいろいろな組織がいろいろな課題のある方を支援している状態ができて、今のうちにしっかりとまた人とお金を循環させるとい、そういう面白いことを生野区で始めたら、まだ間に合うと。ただ、何もやらずにあと15年ぐらい経ったら、多分本当に衰退した感じになってしまうかもしれませんので、そこはこれから万博に向けていろいろなことをやっていくのは大事だなと思っています。

次の23ページをご覧ください。それでは、さっきの第3分野のまちのリノベーション、再変革するといふときに意識していたのは、この分野っていうのは、創業の分野ですね、いわゆるまちづくりをされてる団体もおられますが、最近は本当に大きい企業も含めビジネスのプロフェッショナルの企業が、SDGsというのにも意識して、今までは多分お客さんのニーズに対応することで利益を上げていましたが、今はお客さんのニーズが激しく変わり過ぎて、そこに向けてもなかなか利益につながらない。やっぱり社会課題を解決するという方法が結局は回り回って会社の正当な利益になっていくということを理解された企業もいろいろと社会課題を解決するというまちづくりにも参画してこられています。

だから、私はこれがビジネスプロフェッショナルからイノベーションプロフェッ

シヨナルがこれから増えてくると思うんですが、そういうところとまちも一緒になって新しいこともやっていくと。ですので、先ほどの22ページのマトリックスでいうと、特に第1の分野では、行政の役割というのはしっかり補助金を出すというのが大事だと思うんですが、これが第3分野の創業になりますと、助成金を出すというよりも日本で初めてとか世界で初めてみたいな新しいこと、面白いことをしたいという、民間やそういう方々ができるだけ面白いことを制約なくできるように、規制緩和であるとかそういう環境をつくっていく、そういうことをするのがこれからの第3分野での行政の役割であると思っています。そこで、お金は企業や地域の皆さんで稼いでいただいて、稼ぎが税金になりますので、それでもって収益とは別の教育であるとか地域福祉や、そこに投資していくというのがまちづくりの循環だなというふうに思っております。こういう考え方で区政を進めていきたいと思っています。

次に、24ページをお開けください。これは前任の山口区長のときからも言っていますが、やっぱり生野区っていうのは、誰もが居場所と持ち場のあるまちへというのが大切だと思っていまして、25ページを開けてください。私は、まちづくりを家造りによく例えて申し上げることが多いのですが、家っていうのは、まず基礎がございませぬ。基礎の部分になるのがやっぱり安全・安心の取組です。防災、防犯、そういう取組が大事と。そして、家の1階部分になるのは、やっぱり商業、工業、地域の経済が元気になること、経済の活性化というのがまず1階部分だと思っています。それから、2階、3階に子育て、教育、また地域福祉、こういうのが乗っていると思っていまして、大阪市内、今、平家ではなかなか人は住んでくれないので、やっぱり2階、3階、教育、子育て支援、地域福祉、こういうところが充実してないとやっぱりまちには人は住んでくれないわけですが、でも、やっぱり1階の経済が元気であると、まちのです、そこがないとそもそも家としてまちとして成り立ちませんので、そこもしっかりとやっていきたい、そういうことで、人、資源がまちの中に循環して、そういう形で誰もが居場所と持ち場のあるまちを目指したいと思っています。

以上でございます。引き続き、目指すまちに向けた施策の方向性を進めさせていただきます。

○上田企画総務課長代理

ありがとうございます。

引き続き具体的な施策の方向性について、上田のほうからご説明させていただきます。本部会では、子育てにやさしく教育につよいまちということで、皆さんにご意見をいただきたいと思っております。資料の49ページをご覧ください。まず、安心して子どもを生き育てることができる環境づくりを目標にして、子どもを生き育てる環境や相談支援体制が整い、安心して子育てできるまちを目指します。

50ページになりますが、そのための具体的な施策の展開なんです、妊娠期から小・中学生まで切れ目なく細かな支援や気軽に相談できる環境づくり、また、地域や子育て支援団体などと連携しながら安心して楽しく子育てができるように、まちぐるみで子育てを応援する機運を高める取組を進めていきます。そのための目安と

する指標なのですが、区民アンケートで子育てしやすいまちと感じると回答した方の割合が、昨年度49.7%という数字でしたが、こちらを令和8年度までに60%以上にしたいと考えております。

次、51ページですが、2つ目の生野区のこどもたちの未来を生き抜く力を育成することです。こどもたちが基礎学力をしっかりとつけて広い視野を持って社会や人生が変化しても自ら解決できる力を身につけている状態を目指しています。

具体的な取組について、53ページをご覧ください。次世代の学校づくりとして、この間も進めてきております西部地域の学校再編の取組や特色ある学校づくりへの支援、こどもたちが未来を生き抜く力を持てるようにキャリア教育などの支援を進めていきます。さらにまちの教育力を上げるということで、学校以外の場として地域でこどもたちが様々な学習や体験をして交流ができるような機会を設けていきます。また、こどもたちが地域の大人から学ぶことで多世代交流にもつながり、一方で、大人がこどもたちに教えることで大人自身も学ぶことにつなげていけるように持っていきたいと考えております。そのための目安とする指標ですが、難しいことでも失敗を恐れないで挑戦したいと思う児童生徒の割合を令和8年度までに70%以上になるということが1つ目です。2つ目として、学校だけでなく地域で様々な学習、体験や交流ができる機会があると感じる区民の割合を、昨年度35.8%だったものを、令和8年度までに50%以上になるというふうに持っていきたいと考えております。

説明は以上となります。なお、本日ご説明は省略いたしますが、参考資料2として生野区地域福祉ビジョンの素案骨子について、こちらのほうは生野区の地域福祉を考えていく計画となっております。主にくらしの安全・安心部会でご意見をいただくこととしております。

それでは皆様、忌憚のないご意見をいただきますようお願いいたします。

○大藤部会長

ありがとうございました。

それでは、これから委員の皆さんに意見交換をしていただきますが、限られた時間でより円滑に意見交換をしていただけるように、私のほうから学識委員であります森本委員にファシリテーターをお願いしたいと思います。

それでは、森本委員、よろしくお願いします。

○森本委員

皆さん、こんばんは。ファシリテーターを務めさせていただきます森本です。どうぞよろしくお願いいたします。

今からは、皆さんのご意見を活発にいただきたいというふうに思っておりますが、時間が限られておりますので、様子を見ながらということになりますが、皆さん、ご意見いただきますように、どうぞよろしくお願いいたします。

今、上田代理、そして筋原区長から将来ビジョンのベース案ということでお示しをいただきました。今回初めてご説明いただきましたが、異和共生というような考え方、それから、公民地域連携というような形の展開イメージですね、異和共生は18ページ。地域連携の展開イメージということで22ページの取組、それから、23ペ

ージの創業。これも面白いなと思いましたが、25ページのまちづくりは家造りだというあたりですね、新たな展開が期待されるようなお話をベース案としてお示しいただけたのかなというふうに思っています。というところで、どこからでも結構です、よければご意見をとしますので、挙手いただいてお名前をお伝えいただきましてご意見いただけたらというふうに思っています。どこからでも結構です。

○前田委員

前田です。よろしくお願ひします。異和共生についての考え方、以前からも僕、お話はお伺ひして、すごくいいテーマだなというふうには思っています。

ちょっと変わるんですが、具体的にそれではどうしていくかといったことについて、今回、こどもたちの子育てのところを重点的に見てみると、毎回同じことを言っているような気がして、例えばこういうことがあるからこういうことをします、では目標は次こうします。なんですけど、それではそれをどうやってプロモーションしていくのかなというのが全然分からなくて、これは行政だけの考え方ではなくて、多分私たちがどうやってこれを区民の人に伝えていくかっていうのを考えていかなければならない部分だとは思っています。

なので、何か有意義のある場所にしたいので、何かもっとこういう場所で意見交換があってもいいのではないかと思います。これは、多分、まちの人口減少をどう食い止めるかっていうのにも関わってくると思うんです。全国において人口減少というのはどこでもそうで、じゃあ、それをどうやって食い止めるかという、このまちに魅力を持ってもらわないといけないと思うんです。それで、その一つとして子育てしやすいまちというのは絶対にあると思うんです。こういういろんな活動をされているというのは僕も十分理解していますし、では、それを区民の人たちだけでなく、よりもっとこのまちに住んでもらえるように、魅力を区外の人に知ってもらおうかとなると、どうプロモーションして、これを伝えていくのかかと思っうんですよ。何かその具体的な方向というか、何をしていくかというのを話し合えたらいいのかなと今少し思っています。

○森本委員

ありがとうございます。具体的なプロモーションということで、今お示しいただいたのは49ページの部分ですね。子育てにやさしく教育につよいまち、ここでもう少し皆さん、いろいろ意見ないですかということですが、私のほうで少しだけお話ししようと思います。49ページの出生率の推移で、生野区は出生率、少しずつ上がっているという図柄が出ています。私はホームが保育所ですので保育所でもデータを取っているんですが、令和3年4月1日と、まだ令和4年4月1日のものは出ていないので、令和2年4月1日で見ると、大阪市内の中で、こどもの就学児童数なんですけど、就学児童数が大阪市内24区の中で増えている区、3区だけなんです。増えている区は、生野区と中央区と東住吉区です。不思議なことに、生野区は、令和2年から令和3年、少ないですが、50人ぐらい、就学前児童数増えてるんですね。あとの区はのきなみ減ってるのに増えている区ではあるんです。全体的にはもちろん減ってますので総数は減ってるんですけども、令和2年と令和3年で見ると、生野区は少し増えているという。なぜなのかなというふうに思ってるんで

すが、一つは、在日外国人のこどもたちが随分増えているかなということ。保育所にいますと、今、ベトナムやフィリピンのお子さんたちが、たくさん入園をされてきています、中国の方ももちろんです。そういう親子が生野区には随分たくさん入ってこられててこどもの数が増えているのかなと。また、住みやすい場所にもなっているとアンケートが出ていますが、生活はしやすい。生野区、買物も行きやすい、物価も安いというようなことをおっしゃっている方も非常に多いのかなと思っています。ですので、そのことも含めて、子育てに優しく教育に強いというふうなことを、こんなふうにしていけばもっとこどもたちたくさん来てくれるんじゃないのかなとか、こんな展開あるんじゃないのかなとか、何か皆さん、委員の方々の中で感じていらっしゃる事とか、こんなのがあったらいいのになとか、そのようなことがもしあれば話をいただけたらなというふうに思うんですが。

○前田委員

先ほど森本委員が言ったように、何か出生率は増えているといったことに関しては、生野区内に住んでいる人は、やっぱりこのまちに対して、子育てしている人は、しやすいと思って来ている人が増えてはきているのかなと思います。私の周り、ちょっと意見を伺うと、生野区で子育てはちょっとってというような方はすごく多く感じるんですね、そういう意見はいまだに感じます。生野区、ちょっと治安が悪いんじゃないのとか、言い方は悪いですけど、ちょっと不審者の人が歩いてるんじゃないのみたいな言い方するので、やっぱり、そのイメージの払拭はしていかないといけないなとは思いますが、そのイメージの払拭は、どう区外の人にアピールしていくかっていうことだと思うんですね。それが、子育てのところにつながるかどうか分かりませんが、僕はちょっとつながるところだと思っています。その子育てをしやすいまちといったところをPRしていけば、もっとその部分にもリンクしていくんじゃないかなとは思っているの。これだけやっていることがたくさんあって、このやっていること自体がまだまだ仕上がってなくて問題があるのか、それともPRの仕方が悪いのか、どこかに課題はあると思うんですね。その辺りどう思っているのかをちょっとお伺いしたいです。

○森本委員

ありがとうございます。

では、塚本委員、お願いします。

○塚本副部長

公募委員の塚本でございます。どういうPRの仕方とか、区役所がどうこれから具体的に取組んでいかれるかとかいう話なんですけど、私自身、無料の宿題教室を生野区の中でようやく始めさせていただいて1年ほどになるんですが、夏休みや冬休みには宿題教室ということで区民センターなどでやっていて、自己資金で最初スタートして、いろんな手応えとしてつかんでいることは、地域で、生野区の中に子ども食堂さんがいっぱいあったり、頑張っておられる方一人一人が、それぞれの自己資金なり自分で人脈を広げてこどもさんたちに食事を作られたり、補助金や助成金も自分の力で申請して、それぐらいパワーのある方がたくさんおられるということですね。私は富山県にいたり茨城県にいたり長野県にいたり、サラリーマン時

代いろいろ暮らしてきましたけど、大阪市の中でも特に生野区が、そういう皆さんの一人一人のパワーが、生野区に対するパワーっていうのが強いと感じましたものですから、そのエネルギーと区役所として取り組むエネルギーが一緒になって、例えば、その子ども食堂さんがどこでいつしているのか、時々生野区の新聞に載ったりはしていますが、それをもう少し発展させて、わざわざ校長先生に電話してアポイントを取って、ここで子ども食堂やってますよと学校にチラシを届けにいったりもされておられる。何かお互いが結びつくようなものがあれば、私も宿題教室ここでやってますという話を、すごくハードルが高いですが自分で広報に載せてくださいと、区役所をお願いして載せてもらったり、そういったものがもう少しスムーズにいくような何かあればいいなと思います。

○森本委員

ありがとうございます。

本当に様々に、生野区の中では、塚本委員のように宿題教室もあれば、子ども食堂もあれば、いろんな活動をNPOさんがやってて、居場所をつくったりとかしているのかな、そのうまい発信が、できればいいのかなということなのかもしれませんが、よかったら池原委員も、いろんなことを、こどものための活動をなさったりしているので、その辺りのことと、それをどんなふうにかこう広報していくのかとか、伝えていくのかと何か考えていることとかがありましたら、話をいただきたいかなと思いますが、どうでしょうか。

○池原委員

池原と申します。よろしく申し上げます。5年前に子ども食堂を立ち上げて、そして統廃合になって子ども食堂も閉店して、今は月に1回地域のふれあい喫茶でこどもたちに無償でお弁当を配っています。今はもうそれが精いっぱいということと、地域のイベントに対して全然チラシをまくことができなくなりました。今までは小学校があったから小学校だけ、ところが、舍利寺の場合は、生野未来学園と大池小学校で、数名は田島に行かれたり、その中でチラシ配付するのも難しくなって、呼び込みもできなくなったので、何かイベントをしようとする、人集めが、こどもたちが集まらないんです。今月も、映画会を開こうということで、回覧は回さずに、会館とかにポスターを貼ったり、各町会長たちのお家の前にポスター貼ったりっていうぐらいの周知なんですけど、初めてゼロでした。だから、ちょっと残念で、今後、どのような周知でこういうイベントに参加してもらえるようになるのかなということと、こどもたちがだんだん離れていってるような気がします。今まではすごく歩み寄って来てくれたのに、それがちょっと遠くなりましたね。統廃合による結果がそういう結果になったのが残念です。それから、12月18日に舍利寺で大きなイベントをします。舍利寺フェスティバルでプペルバスが来て、キッチンカーが6台、勝五の地車保存会のほうから地車を出してくれたりという周知を、思い切ってポスターを学校をお願いして配ってもらうことにしました。そして、地域では空き家を潰してコインパーキングに。田島のほうでも結構コインパーキングが多くなりました。コインパーキングではなくて、もっと住みやすい、いいものがあればいいなとすごく思います。

○森本委員

さっき前田委員から出たことなんですが、何か子育てにやさしいというようなことがアピールできないかということの中で、一つは、区内の中でどんなふうに自分たちのイベントを知らせていくことができるのかっていうことに一つ課題がありますよっていう。広報いくのに発信したりというようなことで、だけど、広報いくのも月1度だし、2か月ぐらい前からセットしないといけなかったりして、ちょっと間に合わないみたいなこともあったりする。だから、いろんなイベントすることの呼び込みで、こんなことやるよっていうことがうまくタイムリーに届かないみたいな仕組みが、何かうまくないかなということ。

それと合わせて、区内のこどもたちだけではなく、生野区こんなことしてるのよってというようなことがアピールできるような何か、媒体なりがないか。ほかの区でもあるのかもしれないですが、それぞれの地区の中で、見事にだんじりを出していらっしやったりとか、夏祭り、秋祭り、そこにはものすごいこどもたちが集まって、非常に楽しくこの時期を過ごしているのかなというふうに思ったりするけど、そんなことをしているまちも、そんなに多くないんじゃないかというような気もしたりして、そこへの区外にどんなふうにアピールできるか。その辺のことは、後ほど区役所の方にも、どんなアピールの方法や、媒体があるのか、ほかの区の方法も含めてあれば、教えてもらえたらと思います。

そして、まちの未来ということにもつながりますけど、空き家が多くて、コインパーキングになっていくのを、先の筋原区長の話だと、これを創業や起業にもっていけないかというようなことも含めて、子育て世帯が生野区に入ってくるような何か企画であるとか、そのことを発信できていくような取組というか、何かそういうものがあればということで、いろいろこどもたちのために企画させていただいている塚本委員や池原委員のことが、本当にこどもたちや当事者に届く生野区になればいいなというご提案だと思うので、もしよければ、その辺り、生野区の担当の方でこんなやり方もあるよとか、こんな媒体あるよとか、こんなふうになっているよということがあれば、ご報告いただけたらありがたいなと思います。

そして、統廃合の結果という言葉が出てきましたが、統廃合の中で、今学校がどんなふうに具体になっているのかっていう辺りですね。これは、前回のこどもの未来部会の中でも、統廃合をした当事者のこどもたちや保護者がどう思っているのか、ちゃんと調査したりリサーチしたほうがいいのではないかというのが、出たような気がするんですね。だから、その辺りを、今そのことの課題を受けて、統廃合したこどもたち、また保護者がどんなふう感じているのかという辺りが、今どんな進捗になっているのかということも、もしご報告をいただけることがあれば、少しご報告をいただけたらいいかなと思います。

○杉本区政推進担当課長

ご意見どうもありがとうございます。区政推進担当課長の杉本です。広報を担当しております。いろんな情報発信の指標、行政でももちろんやっております、広報いくのもそうですし、TwitterやFacebookもやったりしていますが、タイムリーな話題とかをもっと発信できないかなというのももちろんあります。一つは、官民連

携でまちの情報サイトということで、「いくのぐらしドットコム」というのをつくっております。これは、区が主体というよりも、シティプロモーションのオープン会議で提案されてつくったサイトなのですが、そこには、いろんなタイムリーな情報、イベントとかも掲載したりとかしておりますので、また、そういったところもご活用いただいて、ウェブになってしまいますが、それを発信してうまく効果的にできればなというのは、一つ今、私が思いついたことです。まだほかにもいいアイデアがあればというのもございますが。

○堀川教育委員会事務局総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長

私、地域活性化担当課長の堀川でございます。よろしくお願いたします。日々の学校生活の中で、子どもたちや保護者の不安の声がございましたら、当然、学校が個別に対応していますけれども、今回、学校再編後、半年が経過しましたことから、現在、教育委員会事務局におきまして、保護者の皆さん、児童の皆さんを対象としましたアンケート調査を実施しております。内容としましては、学校再編後、学校生活にどういった変化があったかですとか、楽しく学校生活を送れていますかとかいったことを、選択肢ですとか、項目によっては自由記述の形でお伺いしております。それで、調査結果から、学校生活におけます課題ですとか不安に関するお答えが見受けられました場合には、また、個別に学校と連携をして対応をしてまいりたいと考えております。

なお、スケジュール感ですけれども、ちょうど今が保護者から学校を通じて、教育委員会事務局が調査票を回収する段階に来ておりまして、11月初旬に調査票の回収を終えまして、集計作業ですとか、調査結果の整理をしていきたいと思っており、1月に完了させたいと考えております。また、結果につきましては、保護者の皆様方にもお配りをしたいと考えております。以上でございます。

○森本委員

近くにいと、いろんな課題を耳にするのかなというふうにも思いますので、そこも含めて、いろいろリサーチをしていただきながら、子どもにとっていい、やっぱり教育をしてほしいというのが願いだというふうに思いますので、ありがとうございます。

○筋原区長

ありがとうございました。

空き家のお話ですが、おっしゃっていただいた空き家ですね、よく駐車場になりがちなんですね。これも、空き家を放置しておくと、本当のいわゆる特定空家になって崩れ落ちる。そうなるよりは、まだ駐車場のほうがいいんですが、まちを元気にするという観点でいうと、駐車場になってしまうとその要素はなくなってしまうわけですね。これは私、生野区に来て本当に思うんですが、生野区は、戦災にあってないんで、すごく風情のある長屋とか空き家が多いんですね。そういった場所は、リノベーションをしたら非常に魅力的な場所になりますし、本日の委員の皆さんの方の中でも、実際にそういう空き家を使っての魅力的な場所をつくって、活動を実際されている方々もおられますので、生野区でも空き家カフェ、空き家バンク

というのをつくって活動されている方もおられて、今、我々としても、そこに登録してもらえそうな空き家の掘り起こしですが、なかなかマーケットに出てこなかったりするんですね。だから、いい空き家を我々も探して見つける方法というのも、今、専門家の意見も聞きながら探しているところです。あと私が、生野区の特徴として思うのは、その空き家をリノベーションして、お店やいい活動する場所にするという力のある専門家の方々、また、そういう事業をやりたいというご希望をして集まってこられる方々が生野区内にはおられます。私は本当に実感するんですが、これはベイエリアのほうではなかったですね。これは、外ではもう公民連携で一から十まで手をかけて、1年に1軒ぐらいやっとできるかなというぐらいでしたが、生野区の場合は、自然発生的に幾つも魅力的な場所も既にできてきているので、これはすごい、この生野区の地力というか力だなと思うので、だから、やっぱり先ほども結びつきのお話、塚本委員もおっしゃっていただきましたけど、そのネットワークとか、そういう力のある専門家の方々をどう結びつけていただけるのか、そういうところは、我々もまさに、異和共生の、私たち行政、区役所は、異和共生のコミュニケーターの役割をしないといけないと思っているので、そういうところは、ぜひ一緒になってやっていきたいなと思っています。

○森本委員

ありがとうございます。

本当に、生野区、様々取り組んでいらっしゃるかなと思うんですが、私は、新聞を取っていますが、大阪版のページに、割と生野区の話が載っているんですね。随分前でしたけれど、海外の方が生野区に来られて、空き家を借りて陶芸をなさっているということを記事で見たりしてて、何かそういう形で、この空き家があるのをうまく使いながら、生野区ってこんなにすてきなまちだよみたいなことがうまく発信できていくといいのになと思ったりしています。

ご発言をまだいただいてない方、ぜひよければ、一言ずつでもご感想なりご意見いただいてというふうに思います。

○洪委員

洪です。必ず何か言わないといけないというプレッシャーがすごくあるんですけど、区長さんのお話を聞きながら、生野の魅力って何やろうって、改めて思ったんですが、多分一つは、今、生野区に住まれている人は絶対離さないっていう気概を持たないと、生野区の魅力を生野区に住んでいる人たちに発信を本当にしないと、今住んでいる人たちも離れていってしまうなど、改めて思っていました。

それと今、生野未来学園で保護者の皆さんとか子どもたちが、何を不安に思っているのかっていうのは、これは区がやったわけじゃないから、市が統廃合に向けて動いたので、その辺ちょっと乖離があるのかなということと、あと、アンケートを取られていますが、このアンケートをこどもに取るって実はすごく難しく、親は、そのままダイレクトに書けるんですけど、こどもはやっぱりある程度の支援が要るんですね。そのアンケートの本来持っている意味がどういうものかということ。こどもが本当に感じていることを書かせようと思うと、そのアンケートの支援の在り方はちょっと再度確認を取っていただいて、2回目、3回目と取っていただけ

たらありがたいなと思っています。そうすることで、先生も保護者も地域の方々も、見えてくるのが少しはあるんじゃないかなと思っています。私たちも、何かアンケートを取るときは、私も親の立場であったので、こどもに聞いたって、「いや、そういう意味ちゃうねん」っていうのを何回も説明をしながら、それでこどもも、「ああ、じゃあこうやねん」っていうことがあるんですね。ただ、誘導してはいけませんので、本当に難しいんですが、もう少し丁寧にこどもの立場に沿ったアンケートの仕方があるかなと思います。私は、今は、勤め先は大阪市じゃなくなったんですけど、やっぱり外に出ると、生野区の魅力はすごくいいです。本当にいいなと思って、「生野区にはこんながあるんですよ」って言ったら、みんなが「へえ」って言います。「そんなことができるの、こんなことがあるのん」って、「じゃあ、一度来てください」とか言ったら、本当に来られるんですね。仕事としては来るけれども、皆さん住まない。仕事としては魅力的、コリアタウンもどんどん大きくなっていますし。だから、その仕事として来た方が、やっぱり住んだほうがいいよねって思うような何か補助的なものを、その経済的な補助も含めてつくっていただけたらなっていうのは、どこに言えばいいのかといつも思うんですけど、結局、お金は大事やなと思うんですけどね。

あと、魅力的だったのは、居場所。自分の居場所がある場所が、NPOがこだけあるっていうのは、一方では、ちょっとしんどいからこそNPOが増えてきているのかっていうのがあると思うんですけど、でも、そのNPOがどれだけ素晴らしいかって学ぶ機会を、学校やとか、それが生野区でもそうですが、生野区の宣伝をほかの区でしたら駄目なんですかね。例えば、中央区が伸びているなら、中央区で生野区の宣伝したら駄目なんですかね。私、もともと東区だったので、中央区の人間なんです。私、中央区に住んでいたときより、生野のほうが面白いです。正直言って。ただ、生まれた場所なので思い入れはありますけど。だから、そのいろんなところに生野区の魅力を、新聞で生野区がいろいろ出ているように知らせたらだめなのかなっていうのと。目安とする指標でとか、一番、大阪24区の中で人気のある区の魅力的なものは一体何なのかっていうのを分析した結果を、私はあんまり見たことがないんですね。何をもってそこの地域が1位、2位、3位を取ってるのかとか、それが、果たして、私たちの地域にとっては、他地域では1位であっても、生野区にとったらそれが1位となるかは別だと思ってるんです。だから、そういうところも見えたら、私たちが目指すところが、具体的にもう少し見えてくるのかなっていうのを思いました。

あとこれ、未来を生き抜く力の育成のところ、私何回か生き抜くって言い方嫌だなって言ってると思うんですけど、ここのところの指標というかデータですが、やっぱり、圧倒的に勉強に取り組めない環境があると思うんですよ、家庭の中に。だから先ほど、子ども食堂の話もそうなんですけど、私も、去年いろいろ居場所の何かとか、いろんなところに関わりましたが、やっぱり目標を持てるような状況になってない。これは、やっぱりエリートって言われる地域だとか、そこでのうちの話かなって思ってるんですね。だから、やっぱり根本的な構造的にしんどくなっている状況を変えない限りは、皆さん頑張っておられると思うし、学校もそれなりに頑張

っていますので、なかなか伸びないんじゃないかなと。この結果を見るたびに、「ほら、生野区はあかんやろ」というような、そうじゃないよということで、やはりNPOがいろいろあって、いろいろ生野区がやっていること、先ほど塚本委員からもあったように、いろんなことをやってるところを、学校の中で知らせて、それがどれだけすばらしいことなのかっていうことをきちんと学ぶ。そういうものが、学校の中とか保護者に向けてメッセージがあるような発信も必要だと思っています。

もう一つは、民間ばかりに頼っていて公は何をするのかということと、さっきのお金もそうですけど、民間にすごく頼っているところもしんどいかなと思っています。ここもやってると思うんですけど、生野区は障がいを持っておられる方のいろんなNPOも多いと思うんですが、企業と中高生、また小学校高学年と、そういう人たちと一緒に本気で商品づくりをしてみてもどうか、売れる物をつくる。それをうまくコーディネートしてくれる人とか、ものづくりは、生野区はすごいので、東大阪とかあの辺もそうですけど、例えば、生野区がモデルになって東大阪に流れたものもありますし、だから、その辺とコラボをしながら他地域に売り込んでいく。そのためには、やっぱり売れるものをつくらないといけないと思いますが、そこは区役所の方々に頑張ってもらっていて、外に営業に行っていていただくみたいなことをしてもらえたらなと。

あと、コリアタウンに来る人たちへの、コリアタウンはコリアタウンの魅力もあるけれども、そこにいてる人たちが魅力的なんだというような、だから、住んでみてくれませんかみたいな。私、前も言ったと思うんですが、オンデマンドで周遊をして、結果は大阪メトロにお話しますってあったと思うんですけど、そうやってうちの魅力を、こんなメリットがある、だから、ぜひ皆さん住んでくださいとか、ちょっと1か月住んでみるとか、2週間住んでみるとか、そういうことを。何でかという、学校も留学制度っていうのがあって、1か月間だけ。例えば海外にいて、里帰りして日本に帰ってきて、1か月間大阪の学校に行けることができるんですよ。だから、そういうことも、留学じゃないけれども、「都会やけど、生野区で住んでみませんか」みたいな、空き家とかも使ってやってはどうかなと、ちょっといろいろ思っていました。ただ全部、「よし、それがええ」っていうような、意見にならないのが、本当に残念なんですけれども、ぜひ、ほかの人たちは、「行政がそんなことやってくれんのん」とか、「そんなんがあんのん」って、やっぱり言われます。だから、ぜひ知恵を絞って発信をするっていうことを、何とか頑張っていけたらなと思います。

○森本委員

ありがとうございます。

いろいろと意見をいただきましたので、これ、たくさんヒントをいただいたかなと思うんですが。区長、この辺何か。

○筋原区長

ちょっと、部分的な話ですけど、ものづくりは、私、今までバイエリアのほうもものづくり盛んだったので、ものづくりの振興っていうのはずっと取り組んできておりまして、生野区は、事業所の数は24区で一番多くて、おっしゃったように、も

のすごく力のあるものづくりの企業はたくさんあります。手仕事系が多いので、本当の技術力があって、1社1社が海外から特別注文が来るような、本当にすごいまち工場ですね、本当にたくさんあってもう驚くばかりですね。日本の場合は、まち工場はすごく高い技術力があるんですけど、下請孫請けの時代が長かったので、新しい新製品のアイデアがなかなか沸かないっていう悩みをお持ちだったりするんですね。一方で、ベンチャーや大学の研究者っていうのは、アイデアはあるんですけど形にできないというのがあって、今までも、そのベンチャーや大学の研究者のアイデアをまち工場の技術力で形にして新製品を作るという拠点をつくってきまして、それを生野区でもぜひつくりたいと思って、今、まち工場の皆さんとお話をし、やりませんかっていうことも一緒に言っているところです。それとまち工場の場合は、ベンチャーから発注を受けるときに、1つの会社、まち工場だけであつたらこれしかできないってあるんですが、その中にネットワークを組んで受けられたら幅広く受けられるっていうのがあって、その受注拡大というのを国内でも、あるいは、東南アジアの方までマーケットを広げて受注拡大をできないかという事を考えています。ネットワークは、今でも実は、この生野区、東成区でかなりできていたりするんですね。ですので、そのネットワークを生かして受注拡大をできないかというのを、区役所の事業として考えているところです。

それとあと、実際に住んでもらうというのは、実際に大正区のとときにファクトリーステイというのをやったことがあって、1週間とか一定の期間、学生の時に工場でお試しで働いていただきながら、そのリノベーションでつくったカッコいい宿泊施設に泊まってもらいながら、土日は、この大阪の都市の魅力も感じてもらうというのを、実際にやっていたことがあります。ぜひ、そういうのも一緒になって、生野区でもできたらなと思いました。ありがとうございます。

○森本委員

ありがとうございます。

住むためのということのご意見の中で区長さんにもお返事いただきましたけど、空き家もあるし、いろんな工場もあるし、何かちょっと家賃補助みたいなものがあるとかいうようなことが経済の活性とか、税金の増収とかっていうようなこととリンクしてくるのかなと思いました。

あと、いい先生をって、やっぱり私たちは望んでしまうんだけど、多分、先生たちも非常に苦しかったりするのかなっていう部分もある。何か、その辺が生野区によさで、学校の先生たちも私たちと一緒に、先生たちの大変さも聞き合えるとか、子どもたちが生き抜くはより生き合うのほうがいいやろっていう話がずっと出てきますけど、私たちも、学校の先生たちと私たちと一緒に生き合っていく、学校の先生たちが生野区の小学校に行きたいと思うような、何かこういう関係がつけたいけるまちになるといいのかなって。何かやっぱり温かく受け止めてくれるよとか、失敗と一緒に考えてくれるよみたいな、できているか、できていないかとかいうようなことを問うのではなくて、一緒にどうやったらできていくのかなみたいなことが。

○池原委員

実際に、そういう先生がいいよね。

○森本委員

そういう先生たちに、一緒にやりたいよねっていうのが見えたかなっていうふうに思っていました。でも、やれるでしょうという。

○大藤委員

実際、新巽中学って、ちょっと前までは全然やったんですよ。先生同士の間がうまくいってなかったっていうのもあって、そのときに、僕がたまたまPTAの会長で入ってしまって、うまくいっていなかった先生がたまたま出られて。校長先生にお願いしたんですが、行ける高校に行かすんじゃなくて、行きたいと思う学校に行けるようにしてほしいっていうふうをお願いしたんですよ。そこから、区長もよくご存じだと思んですが、校長がすごい勢いで頑張ってくださいって、かなりの勢いで変わった。今もそれはある意味で継続をしていますよね。そういうのは、PTAのほうからも打ち上げていかないといけないし、地域も学校を見張らなければいけないし、見るとか見られてるっていうことがすごく大事なかなと思いますね。

○森本委員

でも、優しく見てね。

○大藤委員

いや、厳しいことは言いませんよ。でも、その中で、もうそれこそ、私はもう定年がきたら退職しますって言われてた校長先生が、その後、再任用で働られたから、それを思うとやる気が出たんやと思う。もうPTAは応援しますってはっきり言いましたから。だから、そういうことで上がることもあるんで、全然、何もせんと「あかんあかん」って言うんじゃなくて、こうしてほしいっていうことをはっきり伝えたほうが変わる可能性は高いかなと思います。

○森本委員

はい、実例でお伝えいただきました。ありがとうございます。

みんなでこどもたちの教育ができるっていうのは、私たちも先生たちもいい状態でこどもたちに向かえるということなのかなと。

時間までぎりぎりなんですけど、まだご発言いただいていない方。

○山崎委員

皆さん、こんばんは。東小路地域から来ました山崎と申します。いろんな話の中で、私個人、ちょっと考えて思ったところですが、まず、学校再編でいろんなところが今進んでいると思います。実際に統合された学校のこどもたちの意見、こういう場ですから、結構批判的な、駄目なところをこうしましょう、ああしましょうっていう意見がもちろん多いのは当たり前なんですけど、いいところが全く聞こえてこない、今の状況で、ここにいて。私、東小路小学校も再編進んでいくと思います。ただ、今のこの話を聞いている中では、すごく怖いんですね。本当に大丈夫なのか、もちろんアンケートの結果なんかも聞かせてもらって、物事にはメリットデメリットはあると思うんで、デメリットだけじゃなく、こんないいところもあるよっていうのもちょっと聞きたいなというのと、今後もちろん検証をしていただいて、本当に再編してよかったのか、今後どうしたらうまくいくのかっていうのは話し合ってい

ただきたいなど。これからも議論は続けていきたいなと思います。

あと、住居の件なんですけど、東小路の地域もすごく空き家が多いです。ただ、空き家って、特に長屋が多いんですけども、長屋って、その辺のもともとの地主さんとか、大地主さんが全部持ってるんですね。だから、うちもそうなんですけど、「うちの隣売ってほしい」って言うても、地主さんがもう売ってくれないんですよ。個人個人で持ってるんじゃないで、もう全部持ってるんです。だから、その地主さんが何かしない限り、ずっと潰れた空き家のまま、ぼろぼろの空き家のまま、うちの何軒か隣も出て行かれてから次入ってこないんで、もうずっと空き家のままですね。長屋は一つだけ潰すことが非常に厳しいので、それならもう全部の方が出ていってからどうするのか、それも地主さん次第なんで、そこがすごく難しいところなんだろうなっていうのはあります。

それと、生野区に移り住んでいただきたい、すごくそれも大事なことなんですけど、僕が思うのが、生野区に移り住むということは、移り住んでたところがまた減るんですよ。生野区だけが、じゃあよければいいのか。もちろん、生野区をよくしようって当然思ってるんです。ただ、じゃあ平野区からいっぱい来ましたと。平野区がらがらになりましたと。いや、それもどうなのかなと。それなら平野区、次頑張りました。生野区よりも頑張りました。じゃあ、生野区からまた行きました。よくなっていくとは思いますが、何かこの取り合いよりも、結果増えました、なぜなら、こんな楽しいことやってます。何か、今いてる人たちを大切にしようが僕は先かなと思うんですけど、みんながうまくいくような方法ってなかなか難しいと思うんですよ。ただ、僕も生まれも育ちも生野区なんで、何かできることがあればなあと日々考えてます。生野区のその楽しいことっていうのは、僕もPTAから離れて何年か経つんですけど、正直、生野区が、何かこんなイベントがあります、生野まつり、単位でいうとガチメン、本当にそれぐらいの情報しかなくて、僕がこの区政会議に来てから何年か経つんですけど、こんなに皆さん一所懸命偉い方が、大人が考えてるのに、何も届いてないなっていうのが正直現状なんです。何やってんのかなっていう、もちろん、こっちがもっとアンテナ張って調べてすれば見えてくるところはあると思うんですけど、ただ普通に生活している人たちには、あんまり、この行政の楽しいことっていうのはそこまでないのかな。区PTAで僕も入っていて、行事がたくさんあって、スプリングコンサートだったりジュニアフォトグラフィック、いろいろ楽しいことはあったと思う。ただ、それは僕がいたから伝えただけで、多分知らない人のほうが圧倒的に多いんですよ。そういうところの周知に力入れるべきなんじゃないのかな、ホームページで上げているだけじゃあ、見てなければ上げてても意味がないので、見てもらうために何かもうちょっと努力、改善点が必要なのかなと個人的に思います。

○森本委員

ありがとうございます。

山崎さんから、前向きなというかプラスのメッセージをいただいたところで、時間が来てしまいました。では、マイクを部会長のほうへお返しします。

○大藤委員

森本委員、ありがとうございました。

それでは、事務局から連絡事項がありましたらお願いします。

○杉本区政推進担当課長

委員の皆さん、お疲れさまでございます。いろんなご意見いただきまして、ありがとうございます。

本日いただいたご意見については、次あります全体会でまた報告いただいて、ほかの部会の委員の方に共有いただくということになっております。内容については、ひとまず事務局のほうで整理いたしまして、部会長と本日進行を進めていただいた森本委員と調整させていただきますので、よろしくをお願いします。

事務局からは以上でございます。

○大藤委員

ありがとうございました。

それでは、本日の会議を踏まえまして、筋原区長から一言お願いします。

○筋原区長

皆さん、遅い時間、本当に貴重なご意見をたくさんいただきまして心より感謝を申し上げます。

いただいたご意見を基に、区役所のほうも、本当に皆さんと信頼関係を持って、同じ方向で進んでいけるということを少しでも実感していただけるように頑張ってみりたいと思いますので、引き続きよろしくお願いを申し上げます。本日はありがとうございました。

○大藤委員

ありがとうございました。

区政会議は、生野区の将来について区民同士が率直に情報交換をし、意見を語り合える場です。

また、12月2日金曜日には、第2回全体会の開催が予定されておりますので、活発なご意見をよろしくお願いいたします。

それでは、これにて本日のこどもの未来部会を終了します。皆様、お疲れさまでした。